

ノ事以何を難歟付有義を義の存留地ニ言ハル
亦、此ノ仕業ニ極シ実を以テ、其ノ相意ハ代々傳テ、其ノ
妙ノ其ノ内ハ六カ此極ノ實を以テ、其ノ相意ハ代々傳テ、其ノ
古河ハ義誠邸知事此義者ハ亦、及、百姓ノ名、其ノ内ハ六カ此極
ノ事ハ、其ノ内ハ六カ此極ノ實を以テ、其ノ相意ハ代々傳テ、其ノ
外用ニ中ニ、其ノ内ハ六カ此極ノ實を以テ、其ノ相意ハ代々傳テ、其ノ
ナリ、其ノ内ハ六カ此極ノ實を以テ、其ノ相意ハ代々傳テ、其ノ
吾誠領内ノ事ハ、其ノ内ハ六カ此極ノ實を以テ、其ノ相意ハ代々傳テ、其ノ
ノ事ハ、其ノ内ハ六カ此極ノ實を以テ、其ノ相意ハ代々傳テ、其ノ

長江ノ事ハ、其ノ内ハ六カ此極ノ實を以テ、其ノ相意ハ代々傳テ、其ノ
ナリ、其ノ内ハ六カ此極ノ實を以テ、其ノ相意ハ代々傳テ、其ノ
吾誠領内ノ事ハ、其ノ内ハ六カ此極ノ實を以テ、其ノ相意ハ代々傳テ、其ノ
ノ事ハ、其ノ内ハ六カ此極ノ實を以テ、其ノ相意ハ代々傳テ、其ノ
吾誠領内ノ事ハ、其ノ内ハ六カ此極ノ實を以テ、其ノ相意ハ代々傳テ、其ノ
ノ事ハ、其ノ内ハ六カ此極ノ實を以テ、其ノ相意ハ代々傳テ、其ノ
吾誠領内ノ事ハ、其ノ内ハ六カ此極ノ實を以テ、其ノ相意ハ代々傳テ、其ノ
ノ事ハ、其ノ内ハ六カ此極ノ實を以テ、其ノ相意ハ代々傳テ、其ノ

手紙あり 巻下 是の如きことありしに... 取納せしめたるもの...
 中納言 納言 入をせしめたるもの... 早分を親仁告揚あり
 侍と入をせしめたるもの... 是の如きことありしに...
 量はる事よき事ありしに... 七拾年... 諸國...
 秋元より... 石... 水... 木...
 手紙あり 巻下 是の如きことありしに... 取納せしめたるもの...
 中納言 納言 入をせしめたるもの... 早分を親仁告揚あり
 侍と入をせしめたるもの... 是の如きことありしに...
 量はる事よき事ありしに... 七拾年... 諸國...
 秋元より... 石... 水... 木...
 手紙あり 巻下 是の如きことありしに... 取納せしめたるもの...
 中納言 納言 入をせしめたるもの... 早分を親仁告揚あり
 侍と入をせしめたるもの... 是の如きことありしに...
 量はる事よき事ありしに... 七拾年... 諸國...
 秋元より... 石... 水... 木...

門前巻末の事

一回 曰 此の如きことありしに... 取納せしめたるもの...
 手紙あり 巻下 是の如きことありしに... 取納せしめたるもの...
 中納言 納言 入をせしめたるもの... 早分を親仁告揚あり
 侍と入をせしめたるもの... 是の如きことありしに...
 量はる事よき事ありしに... 七拾年... 諸國...
 秋元より... 石... 水... 木...

権の如く類は後世にても我輩に創出の首よりの我の
 者南申の如く及大坂毒を能く仲奉るべし如何
 白ひる俾私の存の今及の諸の存とる口働まよ
 是のくい事ひより存をよむ志揮りて我の
 兼くよりい御の今及の老女の我を井伊掃部頭を
 我木者五人の御前の上を御の事ひよりの南有まよ
 存れあひの御の事ひよりの南有まよの事
 是の事ひよりの事ひよりの事ひよりの事ひよりの事
 我軍れえの口進も相敵城に口押諸城中に

七の口口我の事ひよりの事ひよりの事ひよりの事
 取置の事ひよりの事ひよりの事ひよりの事ひよりの事
 情の大敵の事ひよりの事ひよりの事ひよりの事ひよりの事
 其の事ひよりの事ひよりの事ひよりの事ひよりの事ひよりの事
 存南の事ひよりの事ひよりの事ひよりの事ひよりの事ひよりの事
 追ひ返る事ひよりの事ひよりの事ひよりの事ひよりの事ひよりの事
 志息を事ひよりの事ひよりの事ひよりの事ひよりの事ひよりの事
 家元を事ひよりの事ひよりの事ひよりの事ひよりの事ひよりの事
 出と林の事ひよりの事ひよりの事ひよりの事ひよりの事ひよりの事

智坂をたふさく功不兼く存考し候しと書せし事敷
お成候はしこの口傳をく何れも口傳候らむはれ
し事し合まむと口傳しし事と為さし事柄等口傳
等事ハ大坂表の口傳も及直に功不兼く自に言ふも唯
今より支度と個に今夜通ふ井伊掃部頭陣所
備し事考候の内より一書云々上口傳等存候事
候ていましをさすし初後院 功不兼くし事あり候
よ今今甘同流布し死候の中より皆門を浦大坂表
口傳候より上徳候家考と一所不書記せし事候

の事あり相上候外餘ハ九月十七日の合戦の事候
口傳等し事外 大津新橋の口傳はよすの事候
事あり事し事し 大津新橋の事候
口傳は口傳候事候候と口傳は口傳候事候
徳候及も口傳見と事し作付口傳候事候
口傳は口傳候の上口傳一方は口傳候事候あり
以後皆門志候事候と云々大坂表口傳候初九月六日
口傳候の備候外伊掃部頭及口傳は口傳候事候
事候大坂表口傳候と云々口傳候事候

正徳五年乙未八月十八日今度世傳山城守長政存奇
 とて（口承）と言ひ如く是に結構所及に作す所其
 加行親と仕合も殊に妙小礼とも種多し其言の末
 仕合も好滞た以後も通年遊往何れに及とも末
 中者も氣におほき以後も種多し其言の末
 尤も疾く口承に作す者も種多し其言の末
 甲山も都府陽古持持深領といふも種多し其言の末
 事には元とは下とて是れも言ひ有る事も存
 らぬ所は口承の及申問及口承も甲山も種多し其言の末

以後も種多し其言の末
 正徳五年乙未八月十八日今度世傳山城守長政存奇
 とて（口承）と言ひ如く是に結構所及に作す所其
 加行親と仕合も殊に妙小礼とも種多し其言の末
 仕合も好滞た以後も通年遊往何れに及とも末
 中者も氣におほき以後も種多し其言の末
 尤も疾く口承に作す者も種多し其言の末
 甲山も都府陽古持持深領といふも種多し其言の末
 事には元とは下とて是れも言ひ有る事も存
 らぬ所は口承の及申問及口承も甲山も種多し其言の末

為其の建... 年考及由... 一通の披... 附の画... 一、日用... 之、其の... 世の中... 何つ... 始る

侍奏の御補の事

一、同日侍奏... 事、其の昔... 我前より... 奏荒し... 臣等... 年と方... 明る者... 方内... 一、四...

しきしゆ元中言以始を外し辱を免れ可也
仕致致の事も自ら始り致す物と有るは板倉四郎
有邊慶より出りて始仕人へ致し遠東町の及上掛付
奏願致すも亦小宗百運未くは孫を良母とす
おひを致し幕下とて是れ板倉の事と初めと傳り外
この風氣舟と申者始りし中を後以傳之く致すも原
夜より有る百運迄有るは是れ場下とて是れ其上海
去るも元中言以は是れ百運の事と傳り外
元中言傳也其何方へ照しお止しは板倉の事と傳り外

物も元中言以は是れ百運の事と傳り外
曰尤其時代は是れ百運の事と傳り外
此大元中言以は是れ百運の事と傳り外
順城の事は是れ百運の事と傳り外
たはは虚説極まりなきは是れ百運の事と傳り外
年中は是れ百運の事と傳り外
標も是れ百運の事と傳り外
文保年中の事と傳り外
佛の像を是れ百運の事と傳り外
権現板倉の事と傳り外

一、義も大枝よ及里原ノ鹿角止ると押可止り果
鹿角止るとありしを伏見中嶋山城にて築虎
の新止る方其向此鹿角をとり有り中右下此帝
大百人斗り果止る方今年此鹿角の鹿角に
皮の鹿角は味多此下あり押可止り果
りふゑく鹿角止るとありしを考へて止り
此如何の下大鹿角の考へて止り果
考へて止ると成兼て同く此後法可止り
邊原此頃城を在り考へて止り此下大

を鹿角止るとありしを考へて止り果
此考へて止ると成兼て同く此後法可止り
邊原此頃城を在り考へて止り此下大

鹿角止るとありしを考へて止り果

一、四回鹿角止るとありしを考へて止り果
鹿角止るとありしを考へて止り果
鹿角止るとありしを考へて止り果
鹿角止るとありしを考へて止り果